ともに創ろう。
澄みわたる未来と、心はずむ暮らしを

～長期経営構想における環境分野の取組方針について～

阪急阪神ホールディングス株式会社

2025年7月

ともに創ろう。澄みわたる未来と、心はずむ暮らしを

いま、気温上昇や自然災害の増加、生態系の異変など、地球環境が変化しつつあり、
暮らしに影響が出始めています。

その中で、私たちが、今までもこれからも大切にしたいこと。
それは、このまちに住む人や訪れる人が、
“心はずむ喜び“と”環境との調和“を感じられる暮らしを、
未来にわたり実現していくことです。

住む、楽しむ、働く、移動する・・・
生活の様々な瞬間とつながる私たちのサービスを
もっと、ずっと、環境に配慮していく。
利用するたび、心地よさやワクワクはもちろん、
環境との調和、未来への貢献を実感し、また利用したくなる。
そして、自分らしい選択と環境への配慮がどんどん積み重なって、未来がもっと澄みわたる。

そんな、人と、環境と、未来とのつながりを感じられるまちを、
皆さまと、ともに創り、歩んでいきたいと考えています。

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

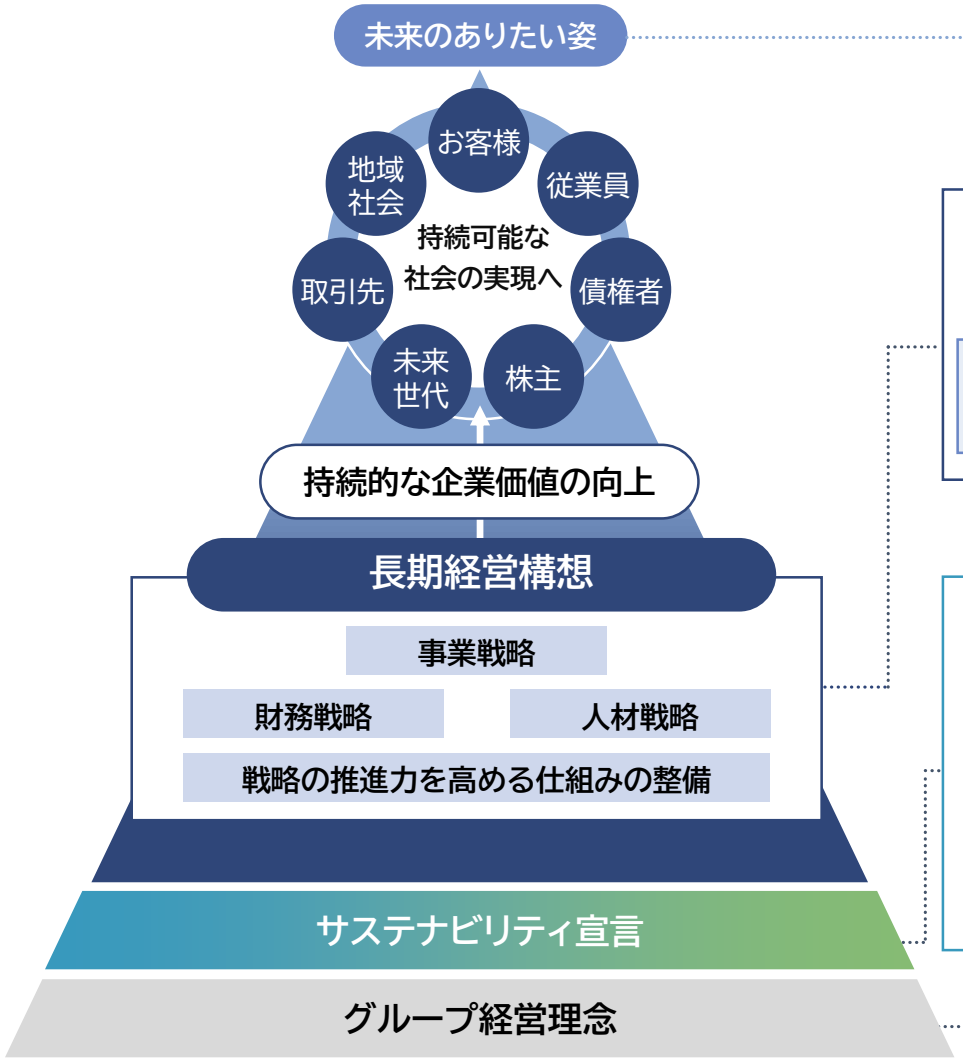
目次

1. 長期経営構想の位置付けと戦略策定の考え方
2. サステナビリティ宣言における重要テーマ
3. 長期経営構想を通じた持続可能な社会の実現に向けて
4. 環境分野における取組の推進
5. 環境分野の取組で実現したいこと
6. 具体的な取組
7. KPIと目標

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

長期経営構想の位置付けと戦略策定の考え方

- グループ経営理念・サステナビリティ宣言をベースに、「未来のありたい姿」の実現に向けた取組を「長期経営構想」として位置付け、長期経営構想を通じて、持続的な企業価値の向上、ひいては、持続可能な社会の実現を目指します。



長期的に当社グループが目指す姿（2040年頃の未来像）

長期経営構想：未来のありたい姿の実現に向けた長期的な経営方針

長期経営構想を通じて私たちがなすべきこと

お客様のニーズに寄り添った商品・サービスを提供し続けること	事業活動を通じて社会課題を解決し持続可能な社会に貢献すること

サステナビリティ宣言：当社グループが持続的成長を目指していくにあたり、ベース（基盤・前提）となるもの

基本方針

～ 暮らしを支える「安心・快適」、暮らしを彩る「夢・感動」を、未来へ ～

私たちは、100年以上積み重ねてきた「まちづくり」・「ひとづくり」を未来へつなぎ、
地球環境をはじめとする社会課題の解決に主体的に関わりながら、
すべての人々が豊かさと喜びを実感でき、
次世代が夢を持って成長できる社会の実現に貢献します。

社会における当社グループの存在意義

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

サステナビリティ宣言における重要テーマ

重要テーマ	各テーマの取組方針	関連する領域	具体的な取組の方向性
1.安全・安心の追求	鉄道をはじめ、安全で災害に強いインフラの構築を目指すとともに、誰もが安心して利用できる施設・サービスを日々追求していきます。	S	① 鉄道や営業施設における事故の撲滅と安全性の更なる向上 ② 防災・減災に向けた取組の推進と災害発生時の迅速かつ適切な対応 ③ さまざまな人々のニーズに配慮した、安心で快適な施設・サービスの充実
2.豊かなまちづくり	自然や文化と共に、人々がいきいきと集い・働き・住み続けたくなるまちづくりを進めます。	S	① 良質な住環境の整備(優良な住宅の供給、緑地や公共スペースの整備、文化・教育施設などの充実) ② 人の交流を生み出す商業・ビジネスエリアの整備・拡大 ③ 女性が働きやすく、子育てしやすい沿線環境の整備 ④ 高齢者の健康寿命の増進に向けた施策の推進 ⑤ 訪日外国人・在住外国人のニーズに対応したサービスの提供 ⑥ 大学や研究機関・ベンチャー企業・地域コミュニティ等との協業・連携強化
3.未来へつながる暮らしの提案	未来志向のライフスタイルを提案し、日々の暮らしに快適さと感動を創出します。	S	① 自然と調和するライフスタイルを実現する商品・サービスの提案 ② 地域の活性化や文化振興につながる商品・サービスの提案 ③ 多様な価値観に応え、快適さや感動を生む商品・サービスの提案 ④ 次代を担う若年層のための商品・サービスの提案 ⑤ スポーツやエンタテインメントを通じた文化の創造と普及 ⑥ ICTイノベーションを活かした既存サービスの改善と新規ビジネスの創出
4.一人ひとりの活躍	多様な個性や能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するとともに、広く社会の次世代の育成にも取り組みます。	S	① 働きがいの向上および労働環境の整備 ② 健康経営の推進 ③ ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 ④ 人権の尊重およびハラスメントの防止 ⑤ 次世代を育成する機会の提供
5.環境保全の推進	脱炭素社会や循環型社会に資する環境保全活動を推進します。	E	① CO2など温室効果ガスの排出量の削減 ② エネルギー効率の改善(省エネの推進) ③ 再生可能エネルギー(太陽光発電など)の活用 ④ 環境配慮型建物(グリーンビルディング)の拡大 ⑤ 廃棄物発生の抑止およびリサイクルの推進
6.ガバナンスの充実	すべてのステークホルダーの期待に応え、誠実で公正なガバナンスを徹底します。	G	① 企業統治の実効性・透明性の向上 ② コンプライアンス・腐敗防止の徹底 ③ 気候変動リスクを含めたリスクマネジメントの強化 ④ 各ステークホルダーの意見を踏まえた事業遂行

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

長期経営構想を通じた持続可能な社会の実現に向けて

- 当社グループは、これまでも、さまざまなステークホルダーのニーズに寄り添い、社会全体に価値を提供してきました。
- これからも、新たな技術も取り入れながらサステナブルで良質な商品・サービスを提供し、お客様に選ばれ続けることで、社会に共感・共創の輪を広げていき、人々がサステナブルな行動を自然と選択できる社会の実現を目指していきます。

取組の考え方 サステナブルで良質な商品・サービスを提供し、お客様から選ばれ続けることで、共感・共創の輪を広げていく

サステナブル経営の6つの重要テーマ

お客様のベネフィット	**安心感** 社会・自然環境が変化する中でも、日々の暮らしの選択肢が狭まることを心配しなくて良い	**私好みに選べる** 多様な選択肢の中から一番満足できる自分らしいものを選べる	**未来への貢献実感** 共感し合える仲間と一緒に取り組むからこそ、より強く未来への貢献を実感できる
当社グループの提供価値	**一歩先の先進性** お客様のニーズに寄り添い、先進的でサステナブルな商品・サービスを提供する	**選択肢の多様性** 「安心・快適」「夢・感動」につながる、当社グループらしい多様な選択肢を提供する	**共感・共創の機会** 誰もが参画しやすく共感でき、さまざまな人々・コミュニティが共創できる基盤をつくる

今も未来も誰もが自分らしい生活を送れるように、
サステナブルな行動を **自然と選択できる社会** を当社グループが実現していく

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

環境分野における取組の推進

- 長期経営構想において、ステークホルダーの関心が高い社会課題である「地球環境問題」について、脱炭素に向けた取組に加え、近年注目されている生物多様性・自然資本の保護や資源循環についても取組の方向性を明示し、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいきます。

脱炭素 サプライチェーンを超えた「社会全体の脱炭素化の推進」

ライフスタイルや価値観に合わせた環境配慮型の商品・サービスを提供することで、社会全体の温室効果ガス排出量を削減し、カーボンニュートラルに貢献する。

生物多様性 緑化・自然保護による「地域の魅力向上」

健康や心の豊かさ・地域の価値向上などウェルビーイングの充実につながる緑化・自然保護・生物多様性の保全を推進する。

資源循環 廃棄物の削減・リサイクルの促進を通じた「環境負荷低減と付加価値向上の両立」

廃棄物の削減に加え、資源の有効活用・循環を目指すリサイクル(水平リサイクル・アップサイクルを含む。)を促進するとともに、より質の高いリサイクルに努めていく。

全般 環境貢献活動への「参加機会の提供とコミュニティ形成の促進」

環境負荷の見える化による環境貢献行動の促進や、お客様参加型の環境貢献活動メニューの整備、活動を通じたコミュニティ形成を促進することで、共感・共創の輪を広げていく。

KPI

①当社グループにおける温室効果ガス排出量の削減率
②電力の再エネ比率
③サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量(スコープ3)
④鉄道事業(阪急・阪神)の温室効果ガス排出削減貢献量

⑤自然の豊かさによる地域の魅力度
⑥特定地域の植物種数／生物種数

⑦産業廃棄物排出量(建設受注工事を除く)の連結売上高比率
⑧水平リサイクルやアップサイクル(PETボトル、廃油等)のプロジェクト数

⑨「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」等を通じた環境貢献活動への参加者数／市民団体助成数(累計)

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

環境分野の取組で実現したいこと（実現イメージ）

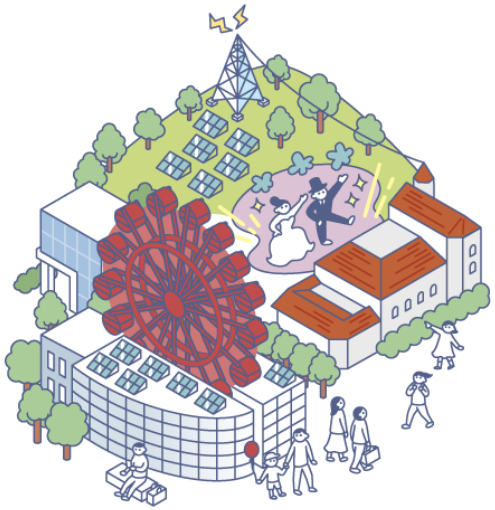
緑化・自然保護による都市の魅力や
ウェルビーイングの向上

サプライチェーンを超えた
社会の脱炭素化の推進

廃棄物の削減、リサイクルの促進による
社会の環境負荷低減

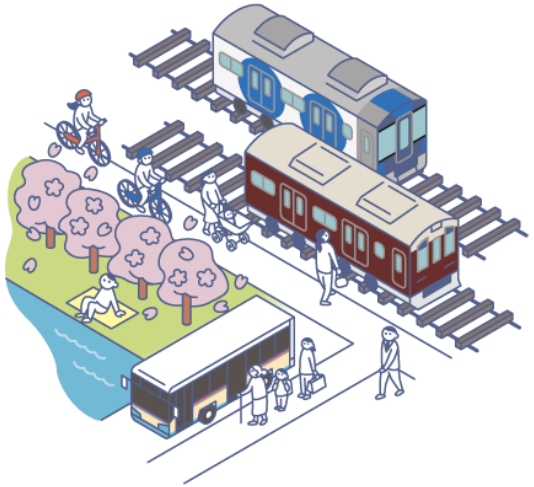
©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

環境分野の取組で実現したいこと：脱炭素



◆当社グループにおける脱炭素の推進

ありたい姿	2050年カーボンニュートラルの実現に向け、 新しい技術を取り入れながら、着実に省エネに取り組むとともに、 創エネルギー・再生可能エネルギー（環境価値）の活用を進め、 温室効果ガス排出量を削減する。
取組例	● 省エネの推進（省エネ車両の導入等） ● 太陽光パネルの設置・コーポレートPPAの導入 ● 再生可能エネルギー由来の電力の導入 ● EVバスの導入、エコドライブの推進 ● 環境配慮型建物（グリーンビルディング）の普及・拡大



◆モーダルシフトによる社会の脱炭素の促進

ありたい姿	公共交通を軸としたまちづくりを推進し、鉄道を中心とした 公共交通の利用を促進するとともに、駅までのラストワンマイル に便利なモビリティ（レンタサイクル・EVバス等） と組み合わせることで、移動による環境負荷の軽減に貢献する。
取組例	● 環境負荷の低い交通ネットワークの形成 ● レンタサイクル・シェアサイクル

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

環境分野の取組で実現したいこと：生物多様性

◆緑地空間の形成

ありたい姿	緑豊かなまちづくりを推進し、自然を身近に感じることで、住む人・働く人・訪れる人のウェルビーイングを高めるとともに、そのまちに集った人々のつながりが、新たな価値を創造する。
取組例	● オフィス・商業施設・マンション等の緑化の推進 ● グループ会社のノウハウを活かした生物多様性の修復・保全 ● 生物多様性の保全への貢献の見える化

◆地域と協働した自然保護・ネイチャーポジティブの推進

ありたい姿	地域と協働して自然保護・ネイチャーポジティブの取組を推し進めるとともに、それらの取組を通じて自然の価値の重要性や自然と触れ合うことの喜びを共有することで、取組の輪を広げていく。
取組例	● 生物多様性の保全・教育に取り組む市民団体への助成 ● 市民団体と協働した生物多様性の保全活動 ● 市民参加型の取組の推進

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

環境分野の取組で実現したいこと：資源循環

◆廃棄物削減の推進

ありたい姿	業務プロセスの見直しや従業員への啓発等を通じて 廃棄物の発生を抑制するとともに、「廃棄物」を 「資源」としてとらえ、リサイクルに取り組むことで、 継続的な廃棄物の削減を実現する。
取組例	● グループ施設内における廃棄物削減の推進（フードロス削減等） ● プラスチックのリサイクル、脱プラスチックの推進 ● 商業施設、駅舎等における中水・雨水の活用

◆水平リサイクル、アップサイクルによる社会の環境負荷低減

ありたい姿	パートナー企業、お客様、地域社会と協働して 水平リサイクルやアップサイクルの促進に取り組み、 廃棄物の高付加価値化と回収効率向上につなげることで、 社会のリサイクル率向上、ひいては環境負荷の低減に貢献する。
取組例	● PETボトル水平リサイクル促進 ● 廃油の自社施設内でのリサイクル活用 ● 廃食油回収によるSAF・バイオ燃料の普及 ● 食品廃棄物の飼料等への利用

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：脱炭素

◆当社グループにおける脱炭素の推進

鉄道・駅における省エネルギーの取組

- 当社グループでは、エネルギー使用において、鉄道の運行に係るエネルギーが約40%を占めるため、鉄道の運行における省エネルギーの取組を重要視しています。阪急電鉄・阪神電気鉄道では、車両機器メーカーとの開発協議などを行いながら、省エネルギー性能の高い車両の導入や更新に注力しています。
- 例えば、**阪急電鉄・阪神電気鉄道**では、最新の省エネルギー性能が最も高い車両において、モーターに全閉式高効率主電動機を用いた高効率のVVVFインバータ制御装置のほか、前照灯を含むすべての照明機器にLED照明を採用し、従来型車両と比較して**約60%の消費電力削減**を実現しています。

阪急電鉄　省エネ車両

阪神電気鉄道　省エネ車両

鉄道事業における カーボンニュートラル運行

- 2025年4月から阪急・阪神全線の列車運行及び駅施設等で使用する全ての電力を実質的に**再生可能エネルギー由来の電力**とし、**CO_2排出量ゼロ**で運行しています。さらに、阪急電鉄ではコーポレートPPA※を活用して、追加性のある再生可能エネルギー電力を導入しています（阪神電気鉄道では、2026年度より導入予定。）。

※「Power Purchase Agreement」（電力購入契約）の略

カーボンニュートラル運行を記念するラッピング電車
（左：阪急電鉄　右：阪神電気鉄道）

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：脱炭素

◆当社グループにおける脱炭素の推進

太陽光パネルの設置

◆ 当社グループの各施設では、再生可能エネルギーの活用として、**太陽光発電**の設備を設置しています。

都市交通事業	阪神大石駅、阪神大物駅、阪神杭瀬駅、阪神尼崎センタープール前駅、阪急摂津市駅、阪急西宮北口駅
不動産事業	HEPファイブ、阪急西宮ガーデンズ、大阪梅田ツインタワーズ・サウス、Hankyu Hanshin Logistics Centre（シンガポール物流倉庫のオンサイトPPA）
エンタテインメント事業	阪神甲子園球場、 日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎

阪急西宮北口駅

阪神大石駅

宝塚大劇場・阪神甲子園球場での コーポレートPPAの導入

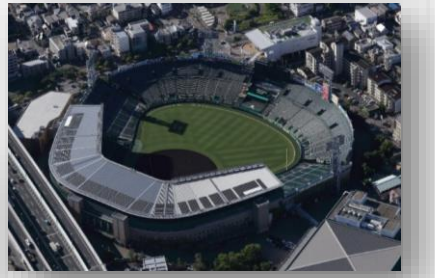
◆ 2024年7月に**宝塚大劇場・宝塚ホテル**、2025年3月に**阪神甲子園球場**で使用する電力について、コーポレートPPA※を活用して、追加性のある**再生可能エネルギー電力**を導入しました。

◆ この取組により、宝塚大劇場・宝塚ホテルでは年間約4,600t、阪神甲子園球場では年間約3,000tのCO_2排出量削減を見込んでいます。

※「Power Purchase Agreement」（電力購入契約）の略

宝塚大劇場

宝塚ホテル



阪神甲子園球場

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：脱炭素

◆当社グループにおける脱炭素の推進

オフィスビル・商業施設等への再生可能エネルギー由来の電力の導入

◆ 2022年4月に**大阪梅田ツインタワーズ・ノース／サウス**の両ビルにおいて、実質的な**再生可能エネルギー由来の電力**を導入※1しました。2025年度には大阪梅田地区及び阪急阪神沿線で運営するオフィスビル・商業施設等※2における電力使用量※3の大部分を実質的な再エネ電力に置き換えました。

※1 共用部とオフィス専用部の双方に導入。
※2 建替・再開発予定の物件、使用電力が極めて小さい物件、当社グループがエネルギー管理権原を有しない物件等、一部の物件を除く。
※3 ガスコージェネレーションシステムによる自家発電分を除く。

大阪梅田ツインタワーズ・ノース

大阪梅田ツインタワーズ・サウス

エネルギー効率を測定するビル管理システム（BEMS等）の活用

◆ **大阪梅田ツインタワーズ・サウス**では、BEMSによりエネルギー使用量・効率を「見える化」してビル設備の省エネ運転・制御に役立てているとともに、発電効率の高い「コージェネレーションシステム」、建物の外部に近いゾーンから執務室にかけて段階的な温度設定を自動的に行う「シークエンス空調」、デシカント（乾燥剤）で空気中の湿度をコントロールすることにより空気環境を整える「デシカント空調」等により、快適性を維持しながら省エネを促進しています。

◆ また、当ビルではテナントも貸室内の日ごと・時間ごとのエネルギー使用量をWEB上で確認でき、トレンドや対前年比較等のグラフ化も可能な、一歩進んだ「見える化」システムを実現しています。これにより、テナントの省エネ意識の向上を助け、日々の省エネ活動が行える仕組みを構築しています。

大阪梅田ツインタワーズ・サウス
12階 WELLCO

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：脱炭素

◆当社グループにおける脱炭素の推進

EVバスの導入 エコドライブの推進

- **阪急バス**では、2021年10月から大阪大学学内連絡バスとして2両のEVバスを導入しました。現在では千里営業所管轄路線で2両、茨木営業所管轄路線で8両、猪名川営業所所管で4両運行しています。
- **阪神バス**でも、2023年5月からEVバス2両の運行を開始し、現在では合計4両運行しています。これは兵庫県内の乗合路線バスとしては初の事例となります。
- 阪急バス・阪神バスをはじめとしたグループ各社では、従業員への教育をはじめ、**アイドリングストップ**装置のついた車両の導入や**エコドライブコンテスト**の開催など、さまざまな取組を通じて、**エコドライブ**を推進しています。

阪急バス

阪神バス

環境配慮型建物（グリーンビルディング）の拡大

- 環境・社会への配慮がなされた不動産に対して付与される認証の取得を推進し、環境へ配慮した建物の拡大に取り組んでいます。

「DBJ Green Building認証」

5つ星：「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」
「阪急西宮ガーデンズ」
「HEPファイブ」
3つ星：「神戸三宮阪急ビル」

DBJ Green Building

CASBEE不動産評価認証

Sランク（最高位）：ロジスタ・ロジクロス茨木彩都　A棟 B棟

CASBEE大阪（大阪市建築物総合環境評価制度）

Sランク（最高位）：大阪梅田ツインタワーズ・ノース

ZEB

ZEB Ready：ロジスタ・ロジクロス茨木彩都B棟、ロジスタ大阪松原、ロジスタ京都上鳥羽

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：脱炭素

◆当社グループにおける脱炭素の推進

ゼロカーボンベースボールパーク

- 2025年3月、阪神タイガースのファーム施設を尼崎市・小田南公園へ移転し、「**ゼロカーボンベースボールパーク**」として開業。「日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎」、タイガース練習場、室内練習場、選手寮兼クラブハウス「虎風荘」を新設しました。
- 「ゼロカーボンベースボールパーク」では、**太陽光発電・蓄電池**の導入や**廃棄物発電**の活用、省エネ徹底による「脱炭素化」、**ペットボトル・プラスチックカップ**の回収・リサイクルや**雨水・井水**の活用といった環境に配慮した取組を行っています。
- なお、「日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎」は**ZEB Oriented** ※1認証を、「室内練習場・虎風荘（1階部分）」は**Nearly ZEB** ※2認証を、野球施設としては初めて取得。また、「ゼロカーボンベースボールパーク」は、環境省の「**第1回脱炭素先行地域**※3」に選定されています。

※1 延べ面積が10,000㎡以上の建物で、基準一次エネルギー消費量から40%または30%（建物用途による）以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物に与えられる認証
※2 基準一次エネルギー消費量から75%以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物に与えられる認証
※3 2050年カーボンニュートラルに向け、先行的な取組により、家庭や店舗・ビル等（民生部門）での電力消費に伴うCO_2排出量を実質ゼロにすることなどを実現する地域として、環境省が選定するもの。

日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎

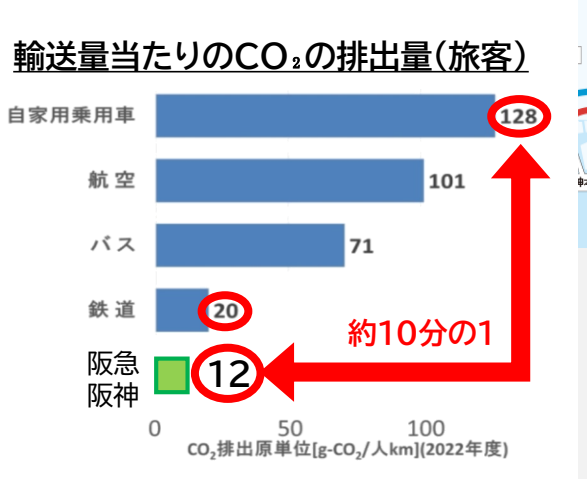
©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

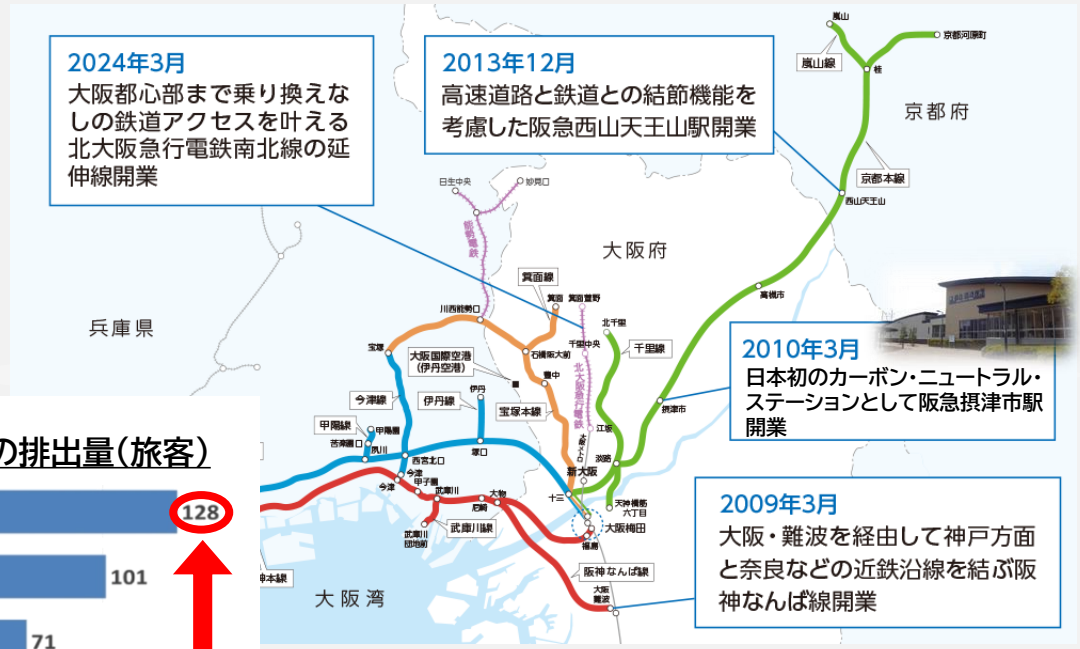
具体的な取組：脱炭素

◆モーダルシフトによる社会の脱炭素の推進

環境負荷の低い交通ネットワークの形成

- 鉄道は、自家用乗用車に比べ、輸送量あたりのCO_2排出量が**約1／8**と、環境負荷の低い交通機関です（特に、阪急電鉄・阪神電気鉄道は、都市部を走っているため約1／10。）。
- 公共交通の利便性が向上することで、自家用乗用車の利用が抑制されれば、我が国における運輸部門のCO_2排出量が削減されます。阪神なんば線や北大阪急行電鉄の延伸に代表されるような鉄道ネットワークの拡充に今後も努めるとともに、バス・タクシーはもちろんのこと、レンタサイクル・駐輪場などの自転車の利用環境の充実を通じて、「駅まで」や「駅から」の交通手段をより便利にし、公共交通を軸とした環境負荷の低い交通ネットワークの形成に取り組んでいます。





※（出典）国土交通省ウェブサイト
「運輸部門における二酸化炭素排出量」
2024年4月26日更新
※阪急・阪神の排出量は、
鉄道脱炭素 官民連携プラットフォーム 利用促進・見える化WG
『旅客の鉄道利用に係るCO_2排出量の算定ガイドライン』
（2024年3月）に基づき算定

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：生物多様性

◆緑地空間の形成

大阪・梅田エリアの都市緑化

- **大阪梅田ツインタワーズ・サウス**では、**壁面緑化**として低層部の外壁バルコニーにプランターを設置し、六甲山系や淀川水系に自生する樹種等を配置しています。また、12階の**屋上庭園**にも同様の樹種を選び、ケヤキをシンボルツリーとして景観と調和させ、オフィスワーカーや訪れる人々にくつろぎや憩いの空間を提供しています。これらの取組が評価され、2024年に同物件が環境省の「**自然共生サイト**」に認定されました。
- 当社グループが事業者JVとして参画した「**グラングリーン大阪**」では、4.5haのうめきた公園を中心に、**約320種**（在来種約270種を含む）、**1,500本以上**の樹木で多様な緑地を形成し、生物多様性に配慮したまちづくりを進めています。

GRAND GREEN OSAKA

大阪梅田ツインタワーズ・サウス屋上広場

兵庫県六甲山エリアの六甲高山植物園の運営

- レジャー事業の拠点として六甲山地区で運営する**六甲高山植物園**では、世界の高山植物や寒冷地植物、六甲自生植物、その他絶滅危惧植物を含む山野草等を**約1,500種**栽培しています。約50,000㎡の園内にそれぞれの植物を環境に合わせて野生に近い状態で植栽し、毎日行う花のガイドや季節の企画展、自然体験プログラムの開催を通じて、自然保護意識の啓発に努めています。
- また、同園は、1947年の創立当初から公益社団法人日本植物園協会に加盟し、その地域拠点園として、日本の**絶滅危惧植物**を生息域外で保全する事業にも取り組んでいます。

絶滅危惧種に指定されている昆虫「フサヒゲルリカミキリ」の食用として、伊丹市昆虫館に提供しているニッコウキスゲ

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：生物多様性

◆地域と協働した自然保護

神戸市「キーナの森」で取り組む森林保全活動

- 阪急阪神不動産は、神戸市の「**キーナの森**」の一部を「**阪急阪神不動産の森**」と名付け、下層植生の育成を阻害している常緑樹等の除伐や、作業に必要となる歩道の整備等の**森林保全活動**を実施しています。
- また、伐採木を用いたワークショップや森林ボランティア体験の研修などを開催することで、**森林資源の活用**や**森林環境教育**を推進しています。

森林ボランティア体験の様子

市民団体への助成を通じた生物多様性の保全活動支援

- グループの社会貢献活動「**阪急阪神 未来のゆめ・まち基金**」を通じて、植樹・育林等の**森林保全活動**や**里山保全・絶滅危惧種の保護活動**を推進する市民団体を助成し、活動支援や定期的な対話を通じて、「未来にわたり住みたいまち」のために生物多様性の保全に向けて連携しています。

虫生川周辺の自然を守る会

富士山麓における環境保全活動

- 富士山はその美しい景観に加え、豊かな生物多様性を育む自然環境としても知られています。阪急交通社では、2015年に「**富士山麓における環境保全活動**」を開始し、「認定NPO法人 富士山クラブ」と協働で、年に一回、東京からバスをチャーターして富士山麓の清掃活動を実施してきました。
- 2024年10月に同社グループ従業員とその家族が活動に参加しており、空き缶やペットボトル、廃タイヤなど**約80kg**のゴミを回収しました。これまでの活動で回収したゴミは**約1.3トン**に上ります。
- 本活動は、「**第2回JATA SDGsアワード**」の地球環境部門で奨励賞を受賞しました。

富士山麓での清掃活動

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：資源循環

◆廃棄物削減の推進

阪神甲子園球場における他社・行政との協働によるリサイクル

- **阪神甲子園球場**では、「KOSHIEN “eco” Challenge」の一環として、「廃棄物発生の抑止とリサイクルの推進」を掲げ、さまざまな取組を推し進めています。

- 生ビールなどの販売に使用し、お客様のご協力により回収した**プラスチックカップ**を、帝人フロンティア株式会社や株式会社シモジマと協働し、ビアカップホルダーなどの**ノベルティ・ごみ袋・球場ラバーフェンス（クッション材）**の原材料の一部としてリサイクルし、同球場で使用するという循環型の取組を導入しています。さらに、**行政指定のごみ袋**としての使用を認められたことで、同球場外に使用を拡大するなど、行政との連携により資源利用の削減を推進しています。

- また、アサヒ飲料株式会社と協働し、阪神甲子園球場内でお客様のご協力により回収したPETボトルを、PET樹脂原料として再資源化し、再びPETボトルとして再生利用する**ボトル to ボトル**（PETボトルの水平リサイクル ）の取組を、2023年から夏の高校野球選手権大会において実施しています。

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：資源循環

◆廃棄物削減の推進

ホテル事業におけるプラスチック削減の取組

◆ **阪急阪神ホテルズ**では、「プラスチック資源循環促進法」に基づき、客室内にご用意している一部使い捨てアメニティーをフロントロビーでの提供※に変更しています。お客様が必要とする分だけをお取りいただくことによる「ごみの排出量の削減」のほか、「環境に害のある物質をなるべく削減」するために、**プラスチック素材のアメニティーアイテムの軽量化**や環境に配慮した商品に順次切り替えています。

◆ また、直営レストラン・宴会場で使用するプラスチック製ストローの素材を環境に配慮したものに切り替え、ストローを必要とするお客様にのみ提供する取組を行っています。

※第一ホテル東京、ホテル阪急インターナショナルは客室内に設置しています

食品廃棄物の削減

◆ **阪急阪神ホテルズ**では、食品廃棄物の発生抑制（加工時に出る廃材の有効活用、提供方法・盛り付けの工夫）や計量に関する仕組みの整備、再利用可能な生ごみの有効活用等により、**食品の廃棄量削減**と**資源の有効活用**を図っています。

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：資源循環

◆廃棄物削減の推進

商業施設、駅舎等における中水・雨水の活用

- **大阪梅田ツインタワーズ・サウス**や**ハービスOSAKA**、**ハービスENT**では、飲食店舗の**厨房排水や井水・雨水**を浄化処理して雑用水（緑化用散水やトイレの洗浄水）として活用する中水道施設を採用し、水のリサイクルによる上水の取水量低減に寄与しています。厨房排水の処理では、脂質・でんぷん・たんぱく質等の分解能力が高い微生物を添加することで、厨房排水特有の有機排水の処理を可能にしています。

- 阪急電鉄の**摂津市駅**と**西山天王山駅**では、ホームの上屋に降った雨を集めて貯蔵するタンクをホーム下に設置し、駅の植栽への散水やトイレの洗浄水に活用しています。
- **阪神甲子園球場**も、銀傘に降った雨水を地下タンクに貯水し、グラウンドへの散水やトイレの洗浄水に利用しています。

大阪梅田ツインタワーズ・サウス

甲子園球場での散水

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

具体的な取組：資源循環

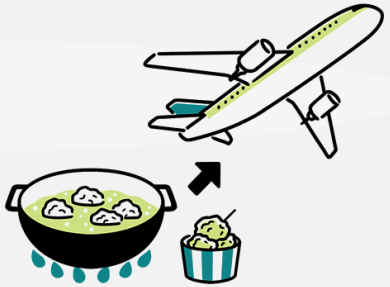
◆水平リサイクル、アップサイクルによる社会の環境負荷低減

廃食油のSAF製造原料としての提供

- **阪神甲子園球場**及び**日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎**では、2025年3月から、**使用済み食用油**を、**国産の持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel）** 製造の原料として供給することで、資源の有効活用に取り組んでいます。

- また、**阪急阪神不動産**では、マンションブランド〈ジオ〉のご入居者様のご協力を得て回収した**廃食用油**を、**SAF製造の原料**として供給しているほか、2025年4月からは『大阪梅田ツインタワーズ・サウス』のオフィス部分においても本取組を開始しました。

- さらに、**阪急阪神ホテルズ**では、ホテル阪急インターナショナル、千里阪急ホテル、宝塚ホテル、京都新阪急ホテルの4つのホテルで回収した**廃食用油**を阪急阪神不動産と同様に、主に**SAF向け**に提供しています。



使用済み食用油を
航空燃料に

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

KPIと目標(グループ共通)

重点的な取組領域		KPI	目標
脱炭素	サプライチェーンを含めた取組による社会の脱炭素化の推進	GHG排出量 (スコープ1・2)	2035年度△60%(2019年度比) 2050年度実質ゼロ ※当社及び海外含む連結子会社
		電力の再エネ比率	2035年度90%以上 ※国内のみ
		GHG排出量 (スコープ3)	算出を継続し、取引先と共に削減を検討
		鉄道事業(阪急・阪神)のGHG排出削減貢献量　※	
生物多様性	緑化・自然保護による、地域の魅力向上	沿線住民へのアンケートを通じた、自然の豊かさによる地域の魅力度　※	
		特定地域(梅田・六甲山など)の植物種数/生物種数　※	
資源循環	廃棄物の削減、リサイクルの促進 (水平リサイクル・アップサイクルを含む) による社会の環境負荷低減	産業廃棄物排出量(建設受注工事を除く)の連結売上高比率	2030年度△10% (2023年度比)
		水平リサイクルやアップサイクル(PETボトル・廃油等)の プロジェクト数	着実な増加 ※併せて、プロジェクトの質の向上も目指す。
全般	沿線住民等の環境貢献活動への参加 及びコミュニティ形成の促進	「未来のゆめ・まちプロジェクト」等を通じた環境貢献活動への参加者数/市民団体助成数(累計)　※	

※モニタリングするKPI

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

KPIと目標(事業別)

	KPI	対象	目標
脱炭素	鉄道車両の省エネ化に向けたVVVF車※1化率	都市交通事業	着実な増加を目指す
	駅照明※2のLED化率	都市交通事業	阪急:100%(2030年度) 阪神:100%(2030年度) 北急:100%(2021年度) 能勢:100%(2026年度)
	新築マンション※3におけるZEH化率 (ZEH-M Oriented※4以上)	不動産事業	100%を継続(2024年度以降) ※他社との共同事業など一部の物件を除く。
	オフィス・商業等用途の大型ビル※5におけるグリーンビルディング等の環境認証※6取得率	不動産事業	100%

※1 従来の車両(モータに必要な電圧を抵抗器で制御するため無駄な熱エネルギーが発生)と異なり、モータの電圧や周波数を無駄なく制御することができる環境効率の高い車両のこと。
※2 バックヤードを除く
※3 各年度に販売するすべての分譲マンション及び賃貸を開始する賃貸マンション
※4 一次エネルギー消費量(2016年の省エネ基準で定められた「暖房」「冷房」「換気」「照明」「給湯」に係るエネルギー消費量)において、共用部を含むマンション全体の消費量を20%以上削減するマンションのこと。
※5 2020年度以降竣工・延床面積30,000㎡以上のビル(他社共有物件等除く。)
※6 DBJ、CASBEE、BELS、LEEDなどの環境認証制度

	KPI	対象	目標
生物多様性	生物多様性関連案件の取組件数	建設・環境事業	取組件数(整備・管理件数)が前年度実績と同等もしくは上回る
資源循環	阪神甲子園球場での飲食包材における脱プラ素材の使用率	エンタテインメント事業	プロ野球・高校野球:各70%(2030シーズン)
	阪神甲子園球場におけるプラスチックカップの回収率	エンタテインメント事業	70%(2030シーズン)
	阪神甲子園球場における飲食売店・グッズショップのレジ袋使用枚数の削減率	エンタテインメント事業	2019シーズン比45%削減(2030シーズン)
	食品廃棄量	ホテル事業	2013年度比△50%(2030年度)
	客室におけるプラスチック使用製品の一人当たり提供量(特定20品目)	ホテル事業	2021年度比△70%(2030年度)
	連泊時の「No Cleaning」申請率 (水使用量削減の促進)	ホテル事業	2030 年度に7.0%(2019年度比倍増)

©Hankyu Hanshin Holdings,Inc. All rights reserved.

阪急阪神ホールディングス株式会社

https://www.hankyu-hanshin.co.jp/sustainability/